工芸作家の作家性に関する一考察

A Study on the Authorship of Craft Artists

濱川 和洋
九州産業大学
Hamakawa Kazuhiro
Kyushu Sangyo University

Key words : Nakamura Shinkyo, Hakata doll, 15th generation potter Sakaida Kakiemon, Text Mining, KH coder

要旨

本研究では、本学にゆかりのある博多人形師の中村信喬に焦点を当て、インタビュー動画における発言内容についてテキストマイニングによる分析を行った。十五代酒井田柿右衛門と分析結果を比較した結果、中村は人に関心が高いことが考えられ「人のために創る」ことが特徴として抽出された。一方十五代は、歴史に関して関心が高いことが考えられ「創り続ける」ということが特徴として抽出された。両者に共通していることは、「他人を思いやる」というものづくりの精神が工芸作家の人格と作家性を高めているということである。

Summary

This study focused on Shinkyo Nakamura, a Hakata doll maker associated with our university, and conducted a text-mining analysis of his remarks in a video interview. Comparing the results of the analysis with those of Kakiemon SAKAIDA XV, we found that Nakamura was highly interested in people and "creating for others" as a characteristic, while the 15th generation was highly interested in carrying on tradition and "continuing to create" as a characteristic. What is common to both artists is that the spirit of "considering others" in in one's craft enhances the personality and creativity of the craft artist.

1．はじめに

日本の近代化以前、いわゆる工芸品は生活必需品として職人の手仕事によって生産されてきたが、明治初期における「美術」という概念の誕生とともに、それまでの手仕事が「美術」と「工業」および「工芸」に分類され、現在の「工芸」というおおまかな概念が形成されたとされる。明治政府が工芸品の産業振興を進め、手工芸の機械化が進む一方で、「美術」の一分野として純粋美術化した美術工芸や、その反動として伝統・古典美術に回帰する伝統工芸が生まれ、その作品づくりを行う工芸作家が誕生した。木田拓也は『伝統的な工芸技術とは、倣作のためではなく、「伝統工芸」という名の現代の工芸の創作に生かされてこそ、その技術の価値が再評価され、次世代へと継承されていくことになる』（木田, 2011:41）と述べている。現代においても工芸作家には、高度な伝統的技術の維持と創造性が求められ、「伝承された職人技を活かした現代感覚のある作品を生み出す」ことが重要なテーマとなっている。

筆者はこれまで十五代酒井田柿右衛門（以降、十五代）の作家活動の追跡調査を行っており、収録したギャラリートークについてテキストマイニング手法による分析を行ってきた。2020 年にはギャラリートークを話題ごとに整理し、上絵の赤に関する意識の変化を捉え（濱川，2020）、2021 年には 2017 年から 3 年間の制作意識の変化を明らかにした（濱川, 2021）。そこで得られた分析結果は、様々

な影響を受けながら刻々と変化していく要素と、何年経っても変化しない要素に分けることができ、作家としての「アイデンティティ」や、作品の根本にある不変的な作家の「信念」とも言えるキーワードが含まれることが示唆された。そこで本研究では、十五代の比較対象として、本学にゆかりのある博多人形師の中村信喬に焦点を当て、インタビュー動画における発言内容についてテキストマイニングによる分析を行う。「その作家特有の思想や技術が作品に投影されることで生じる特徴」を作家性と定義し、既に得られている十五代の分析結果を踏まえつつ、共起ネットワークの比較を通じて作家性の特徴づけを行いたい。

2．博多人形と中村信喬について

博多人形の歴史は、慶長５（1600）年に筑前福岡藩初代藩主・黒田長政が招集した職人達によって素焼き人形がつくられ始め、江戸時代後半には宗七焼や中ノ子吉兵衛、白水武平といった名工たちの登場により、全国的に知られるようになったと言われている。福岡県を代表する人形作家に博多人形師の中村信喬（以降、中村）が挙げられる。中村は、昭和 32（1957）年に博多人形師の三代目として生まれ、昭和 50（1975）年に九州産業大学芸術学部を卒業した。卒業後は、京都にて人形師の林駒夫、陶芸家の村田陶苑、能面師の北沢一念に師事し、幅広く工芸の世界を学んだ。平成元（1989）年には日本工芸会正会員に認定され、平成８（1996）年から今日まで「博多祇園山笠」の人形を作り続け、太宰府天満宮御神忌千百年大祭では「御神牛」を制作した。地域文化への貢献や技術の継承への幅広い取り組みから、令和４（2022）年に福岡県無形文化財工芸技術「人形制作」保持者に認定され、現在は本学美術館の客員教授を務めている。

3．テキストマイニングによる分析方法

分析対象としたインタビュー動画は以下の通りである[1)]。

①九州産業大学美術館 KSU「プロの世界 vol.8 人形師 中村信喬展インタビュー」
②テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（1）| TNC テレビ西日本」
③テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（2）| TNC テレビ西日本」
④テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（3）| TNC テレビ西日本」
⑤中洲の山田ちゃんねる N.Y.C.「ep.06 人形師 中村信喬氏との対談【櫛田神社 山笠】前編」
⑥中洲の山田ちゃんねる N.Y.C.「ep.06 人形師 中村信喬氏との対談【櫛田神社 山笠】後編」
⑦ TheCowtelevision「【博多人形師（2）】博多人形師として生まれて　中村家の家業継承」
⑧ TheCowtelevision「【博多人形師（3）】ものづくりの心構え　座右の銘「一得一失」」
⑨ TheCowtelevision「【博多人形師（4）】人生を変えた３つの転機　次世代へのメッセージ」

3．1． テキストのクリーニング作業

動画が対談形式の場合は中村の発言のみをテキストに書き起こし、素起こししたテキストの「まぁ」や「あのー」など意味を持たない繋ぎ言葉を削除し、ケバ取りを行った。また、方言や一つの語彙に対していくつかの呼び方があるもの、例えば「父」と「先

代」などの表現の揺れを修正した。さらに専門用語や「博多／人形／師」というように分断されてしまう語彙については、強制抽出語としてテキストファイルにまとめ登録を行った。このような作業を繰り返し行い、分析に適したデータに整えた。

3．2．テキストの分析手順

分析には KH Coder 3 [2] を使用した。分析の手順は、①テキストの形態素解析により語彙の出現頻度について解析を行う。②階層的クラスター分析により語られた話題を抽出し、タイトルを付けて分類する。③共起ネットワーク分析によって視覚化される語彙の関係と、中心性の高い語彙から特徴を把握するという流れで行った。

4．頻出語の抽出

動画における語彙の出現回数を示したものが表１である。

抽出語の出現頻度で最も多かったのは１位「人（69）」であり、２位「作る（68）」、３位「思う（48）」、４位「自分（31）」、５位「人形（23）」、６位「作品（19）」、７位「父（19）」、８位「山笠（17）」、９位「今（15）」、10 位「良い物（15）」と続いている。

KWIC コンコーダンスを使い、コロケーション統計にて１位「人」に関係する抽出語を確認してみると（図１）、『人のために物を生み出さないと、それは感動を呼ばない』などという“人のために”という表現が極めて多く、次いで『人がどんなことを望んでるか。』、『人の気持ちわからないとダメよね。』、『人から人に紹介されていくから、仕事が来る』という“顧客や人の要望に応える”という文中に多く出現していた。また、『人が願いを込める訳ね。』や『人は縋って祈ろうとする』という、いわば宗教的な「願い」や「祈り」に関連した使用例も複数見られた。２位「作る」については、『人のために作る』という１位の“人のために”を受ける形で使用される例が多く、『お粥食ってでも良いものを作れ』という中村家の家訓の中に多く出現していた。また、『（表現する物事について）知らずに作らない』という、作るものの説得力や意味を説明する文中にも多

表１　抽出された頻出語リスト（上位 60 語）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	人	69	31	修行	7
2	作る	68	32	人のため	7
3	思う	48	33	人達	7
4	自分	31	34	祖父	7
5	人形	23	35	息子	7
6	作品	19	36	瀧	7
7	父	19	37	土	7
8	山笠	17	38	お金	6
9	良いもの	15	39	柿右衛門	6
10	出る	13	40	粥	6
11	先生	13	41	時代	6
12	仕事	12	42	捨てる	6
13	博多	12	43	出来る	6
14	本当に	11	44	少年	6
15	人形師	10	45	食う	6
16	生まれる	10	46	人々	6
17	必ず	10	47	全て	6
18	ダメ	9	48	調べる	6
19	子供	9	49	林駒夫	6
20	物	9	50	握る	6
21	文化	9	51	伊東マンショ	5
22	家	8	52	右手	5
23	起きる	8	53	加比丹	5
24	元気	8	54	家訓	5
25	虎	8	55	願い	5
26	住む	8	56	喜ぶ	5
27	生み出す	8	57	献上	5
28	全部	8	58	姿	5
29	死ぬ	7	59	自我	5
30	持つ	7	60	取る	5

図１　KWI コンコーダンス

く出現していた。

３位「思う」については、今回分析対象とした不特定多数が視聴するインタビュー動画では、自己の主張を控えめにする対人的な配慮によって「思う」が多用されることが考えられるが、中村が制作に関して考えていることとしての「思う」と、日常的な言い回しとしての「思う」が区別されることなく抽出された結果、出現回数が多くなったものと考えられ、特徴的な使用例は確認できなかった。

４位「自分」について使用例を見てみると、『自分の内面性を磨く』や『自分を捨てて人のためにものを生み出す』、『（制作は）自分のためじゃない』という、いわゆる教訓のような文中に多く出現しており、僅かに中村の一人称として使われた例が確認できた。

５位「人形」については、中村の師匠にあたる林駒夫に関する話題の中で多く出現しているが、その大半は中村の仕事に関係する語彙として単純に多く出現したものと考えられる。６位「作品」についても、そのほとんどが「人形」と同様の意味で使用されており、特徴的な使用例は確認できなかった。

７位「父」については、大半は「父との思い出」や「父の教え」に関係する話の中で多く出現しているが、『父のような人形師になりたかった。』や『すごく腕の良い人。父も福岡県の無形文化財になった。』、『どんなに上手に出来ても父から見たら幼稚園に毛が生えたようなもの。』という、父親をリスペクトする文中にも複数出現していた。

８位「山笠」については、2020 年に COVID-19 で中止となった山笠と、中村が同年に担当した櫛田神社の飾り山が話題の中心となっており、10 位の「出る」もこれに関連して『山笠に出る』や『山笠を見て元気が出る』といった使用例が多く、特徴的な使用例は確認できなかった。なお、表現の揺れを修正するため、山笠の「山」という呼び方を「山笠」に改めて集計している。

９位「良いもの」については、２位の「作る」に関連して『お粥食ってでも良いものを作れ』という家訓に関する文中で多用されており、家訓に続いて『自分が良いものって言ったって、それが良いものかどうかわからない』という言葉や、林駒夫に「土の人形でも入りますか（伝統工芸展に入選できますか）？」と言う問いに対する「良いものだったら入るよ」という返答の中に確認できた。

なお、11 位～ 20 位までは、11 位「先生（13）」、12 位「仕事（12）」、13 位「博多（12）」、14 位「本当に（11）」、15 位「人形師（10）」、16 位「生まれる（10）」、17 位「必ず（10）」、18 位「ダメ（9）」、19 位「子供（9）」、20 位「物（9）」と続いており、総抽出語数は 7,763 件だった。

５．階層的クラスター分析

ここでは、出現パターンの似通った語彙の組み合わせをグループ化し、各クラスターにタイトルを付けることで分類を行った。結合方法は Ward 法とし、語彙の最小出現数は５としてデンドログラム（樹形図）を作成した（図２）。

分析結果をみると、８つのクラスターに分割されている。上から順にみてみると、Cluster 1 は 14 語の結合であり『代々右手を握って死んでいる』という話題が連想され、祖父や父に関することから後継者の息子に至るまで、家族に関係する語彙がグ

ループになっていることからタイトルは「中村家」とした。

Cluster 2は3語の結合であり『林駒夫先生が取った賞の一つ下の高松宮記念賞を受賞した。』という話題が連想されることから、タイトルはその時の受賞作である「島影」とした。

Cluster 3は9語の結合であり『飾り山のテーマが加藤清正の虎退治』という話題が連想されることから、タイトルを「山笠」とした。

Cluster 4は8語の結合であり、柿右衛門の壺を持った加比丹(カピタン)「長崎幻影」や教皇ベネディクト16世に献上した「伊東マンショ像」の話など、作品に関する話題が主となっていることから、タイトルを「作品解説」とした。

Cluster 5は10語の結合であり、歴史や装束、モチーフに関連する物事について『わからないことがあったら徹底的に調べる』という言葉が連想されることから、タイトルを「徹底調査」とした。

Cluster 6は10語の結合であり、『自我を捨て内面性を磨く』ということや『住んでいる土地の文化を大事にする』という話題に関連した語彙がまとめられていることから、タイトルを「文化の尊重」とした。

Cluster 7は6語の結合であり『お粥食ってでも良いものを作れ』という家訓に関する語彙がまとめられていることから「家訓」とした。

Cluster 8は最も多い16語の結合であり、『自分を捨てて人のために作る』ということや『人が喜ぶことをしていると向こうから仕事が来る』という人に尽くすことで好循環が生まれるという話題に関連する語彙がまとめられていることから、タイトルを

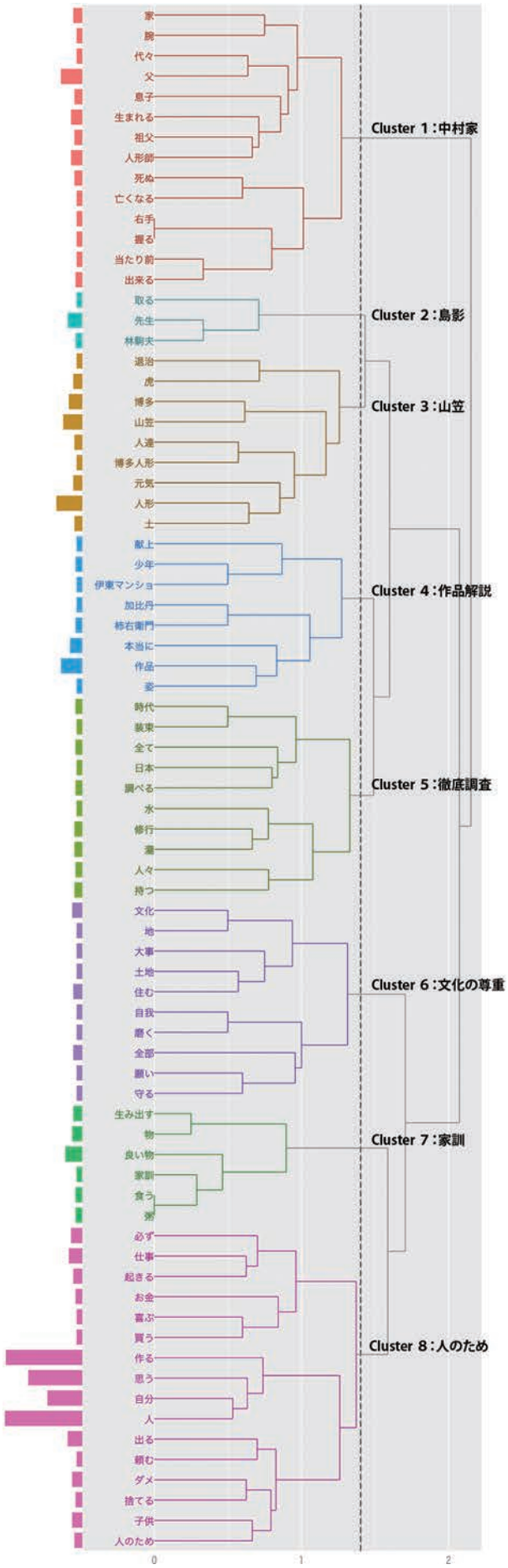

図2　中村のデンドログラムとクラスターのタイトル

「人のため」とした。

以上のタイトルから、インタビュー動画内で語られてきた内容は「中村家」、「島影」、「山笠」、「作品解説」、「徹底調査」、「文化の尊重」、「家訓」、「人のため」の８つの話題に集約し整理することができた。

６．共起ネットワーク分析

共起ネットワークは、出現頻度が高い語彙のうち出現パターンが類似しており、共起関係が強い語彙を線で結びネットワーク図で表したものである。出現頻度が多い語彙ほど大きな円で表され、強い共起関係にある語彙ほど太い線で表示される。また、どこにでも出現する語彙は、他の特定の語彙と強く共起しているとは見なされず、ネットワーク上に表示されない場合がある。

図３に語彙の最小出現数５、共起関係の選択にはEuclid 係数 0.2 以上とした媒介中心性による共起ネットワーク分析の結果を示す。なお、媒介中心性とは、共起ネットワーク上で各抽出語を最短距離で結んだ場合に、経路が語彙を通過する回数の多さを示すものであり、全体への影響が大きい語彙ほど円が濃い色で表示される。

分析の結果、「人のため」、「家訓」、「良いもの」、「林駒夫」という語彙の媒介中心性が高くなっており、描画されている線による共起関係に着目すると、「家訓」は「人のため」と「良いもの」に繋がっており、「良いもの」は「家訓」と「林駒夫」に繋がっていることがわかる。共起ネットワーク図の語彙をクラスターごとに線で括ると図４のようになる。

まず「人のため」は、先述の通り『自分を捨てて人のために作る』ということや『人が喜ぶことをしていると向こうから仕事が来る』という現在の仕事のポリシーとなっているキーワードである。共起ネットワーク図上最も中心性が高くなっており、「人のため」に繋がっている語彙は７つで最も多いことがわかる。次に「家訓」は、祖父筑阿弥が言ったとされる「お粥食ってでも良いものを作れ（どんなことがあっても最高のものを生み出せの意）」という言葉が強く関係していると考えられ、「仕事」と同様『（人のために作っていると）お金は向こうからやってくる』という言葉が連想される。「家訓」の隣には「良いもの」が同じクラスター内で繋がっているが、この「良いもの」の定義について中村は『人が良いものだと思ってくれるもの』と述べており、『それを生み出すためには、人のためにお粥食ってでも良いものを作ること』と述べている。従って「家訓」と「良いもの」は、ほとんど同じ意味にも取れる非常に強い共起関係にあり、「人のため」も強い共起関係があることがわかる。一方「林駒夫」は「良いもの」と繋がっているが、中村が 22 歳の時に林駒夫に会い、日本伝統工芸展に土の人形が入選しないことについて『土の人形でも入るんですか？』と聞いた時に『良いものだったら入るよ』と言われ、その一言で林駒夫に弟子入りすることを決めたという。この出来事を中村は人生における『第１回目のブレイクポイント』と述べているが、「林駒夫」との出会いが後の人生に大きく影響しており、中村にとって重要なキーワードである「家訓」が「良いもの」通じて「林駒夫」に繋がったことがわかる。

中村の制作物が人形という性質上、当然といえば当然かもしれないが、人に関係する語彙の出現が多く興味深い。例えば「腕」、「父」、「生まれる」、「祖父」、

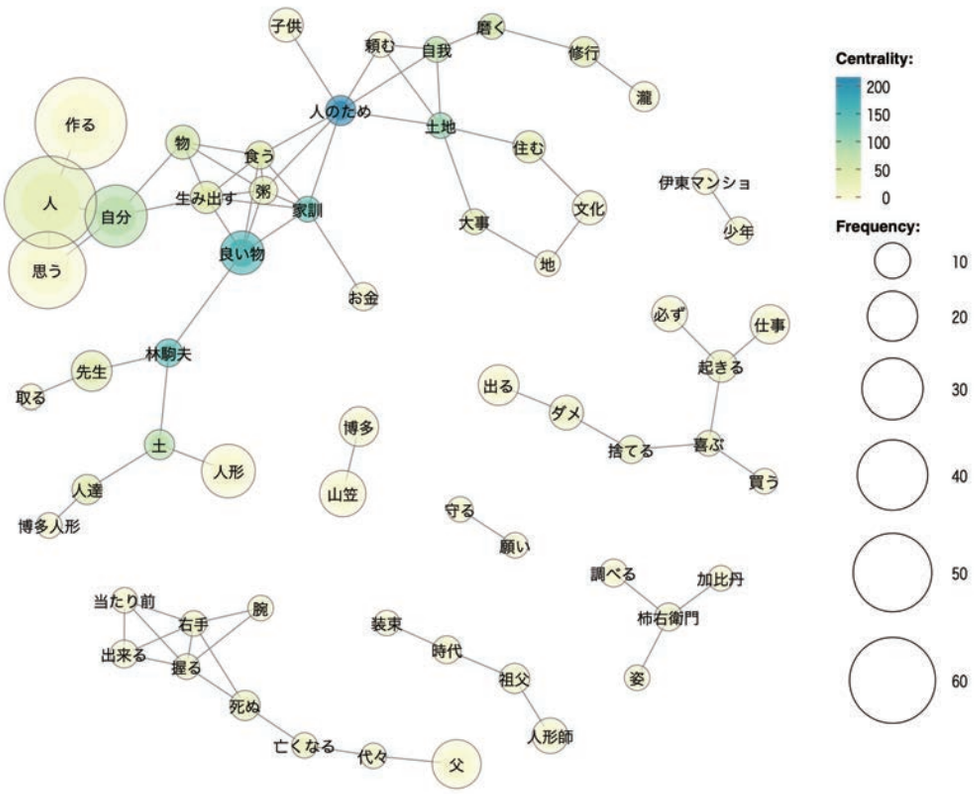

図３　中村のインタビュー動画の共起ネットワーク図　中心性（媒介）

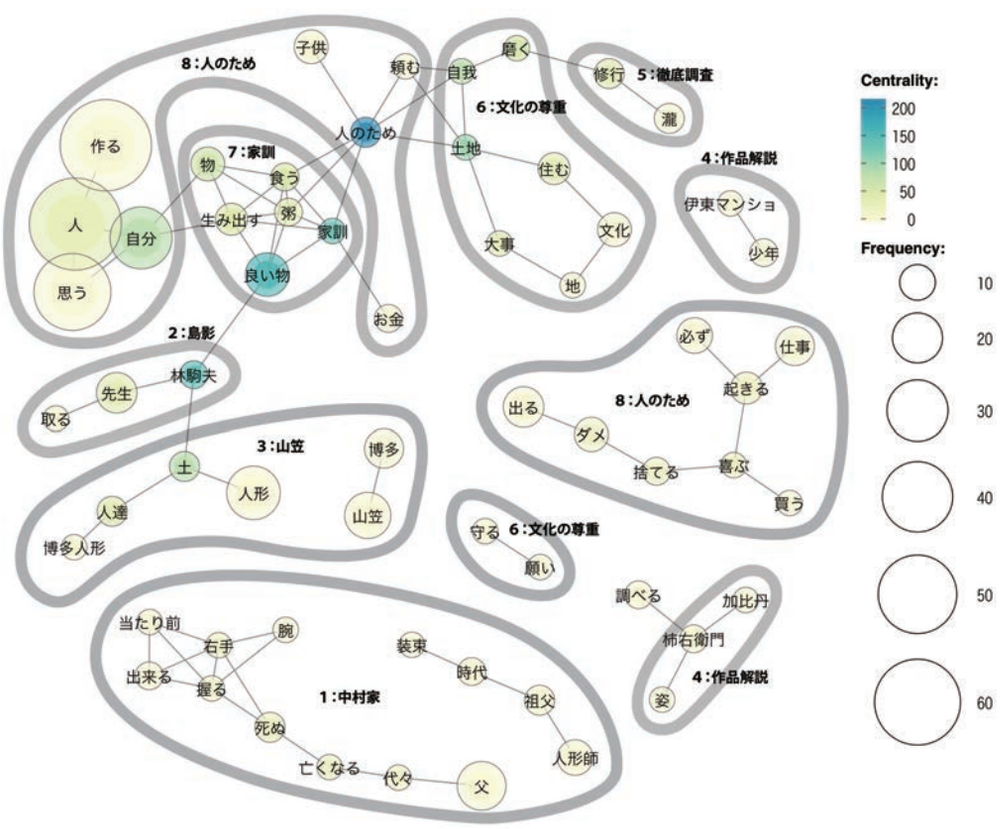

図４　中村のクラスターのタイトルを加えた共起ネットワーク図

表２　分析対象としたギャラリートーク

調査日時		展示名	場所
2017	3.25	【広島】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	福屋八丁堀本店
	9.30	【宮城】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	藤崎
	10.3	【静岡】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店
	10.3	【静岡】「襲名記念」 十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店
2018	3.24	【大阪】 十五代 酒井田柿右衛門展	近鉄百貨店
	4.4	【福岡】十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店
	4.8	【福岡】十五代 酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店
	5.12	【東京】高島屋美術部創設110年記念 ＜襲名記念＞ 十五代 酒井田 柿右衛門展	日本橋タカシマヤ
	9.23	【兵庫】十五代 酒井田柿右衛門展	そごう神戸店
	10.6	【茨城】創業110周年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展	京成百貨店
	11.2	【京都】高島屋京都店美術部創設110年記念 十五代 酒井田 柿右衛門展	高島屋京都店
2019	3.16	【岡山】十五代酒井田柿右衛門展	高島屋岡山店
	12.7	【長崎】十五代酒井田柿右衛門展	浜屋百貨店

「死ぬ」、「亡くなる」、「右手」、「林駒夫」、「人達」、「元気」、「少年」、「伊東マンショ」、「加比丹」、「柿右衛門」、「姿」、「人々」、「自我」、「願い」、「喜ぶ」、「人」、「子供」、「人のため」など、人に対する関心の高さが窺える。

一方で、十五代酒井田柿右衛門展における十五代のギャラリートークについては、COVID-19 の影響により 2020 年以降ほとんど行われなかったため、2017 年から 2019 年までのデータを分析した。分析対象としたギャラリートークについては表２に示す。まず、出現パターンの似通った語彙の組み合わせをグループ化し、各クラスターにタイトルを付け（図５）、共起ネットワークによる分析を行った（図６）。その結果、「赤」、「作る」、「描く」、「柿右衛門様式」、「時代」、「十二代」という語彙の媒介中心性が高くなっており、描画されている線による共起関係に着目すると、「赤」は「作る」と「描く」に繋がっていることがわかる。共起ネットワーク図の語彙をクラスターごとに線で括ると図７のようになる。クラスターのタイトルを含めて共起関係を見てみると、「上絵具の赤を使って作る制作スタイル」、「上絵具の赤を使って描く作品のデザイン」という一連の流れが見えてくる。一方「柿右衛門様式」は、「時代」と「十二代」に繋がっており「柿右衛門様式の流行

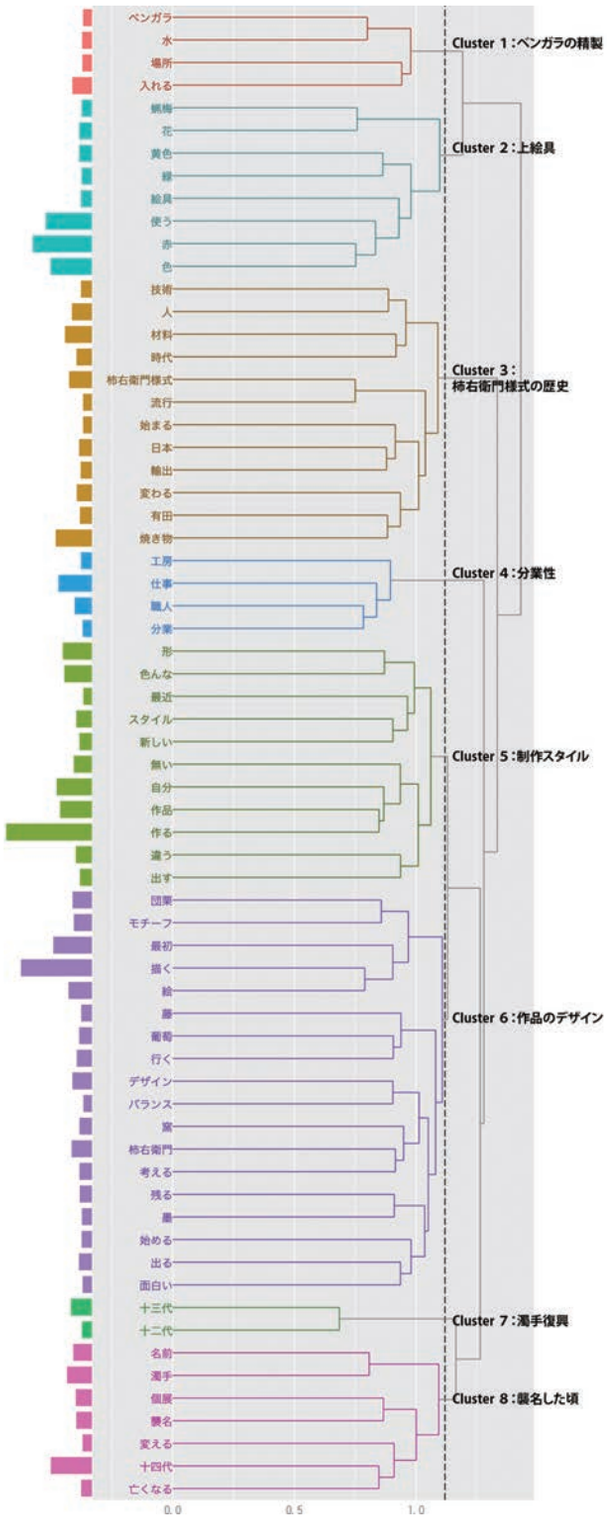

図５　十五代のデンドグラムとクラスターのタイトル

が過ぎた後も時代に合わせた製品を作り続け、十二代の時代に濁手を復興させた」という歴史の流れが見えてくる。中村に比べ十五代は、自身の家族や作品制作に関する語彙よりも、歴史や原材料に関係する語彙の出現が多くなっており、作家としての個性

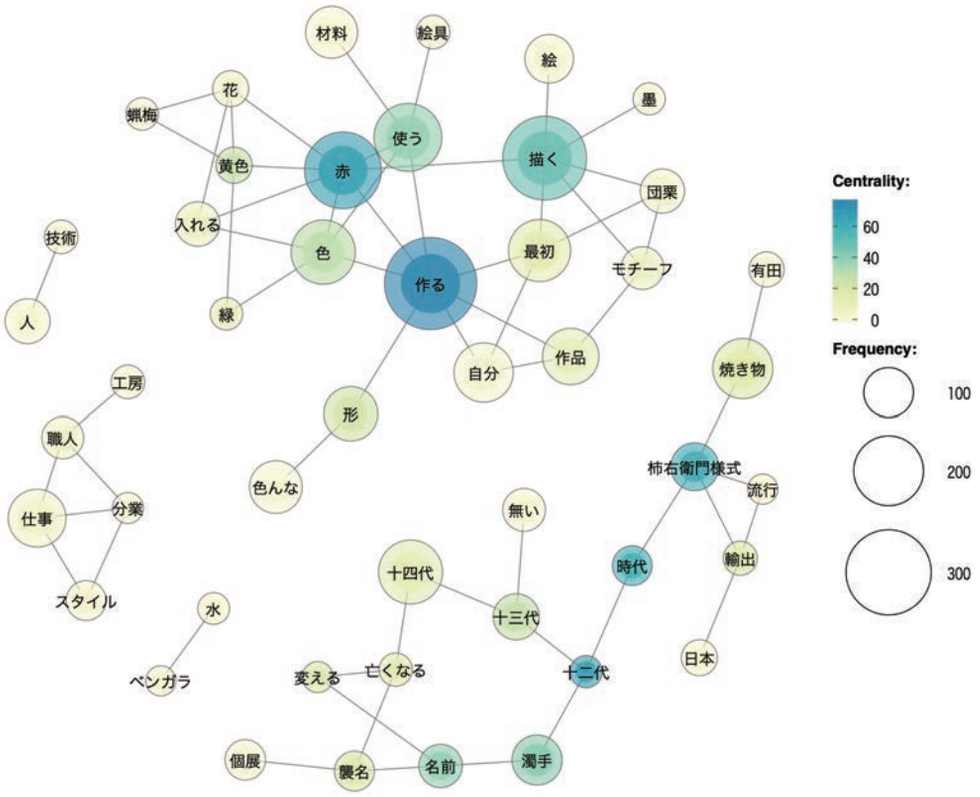

図６　十五代のギャラリートークの共起ネットワーク図　中心性（媒介）

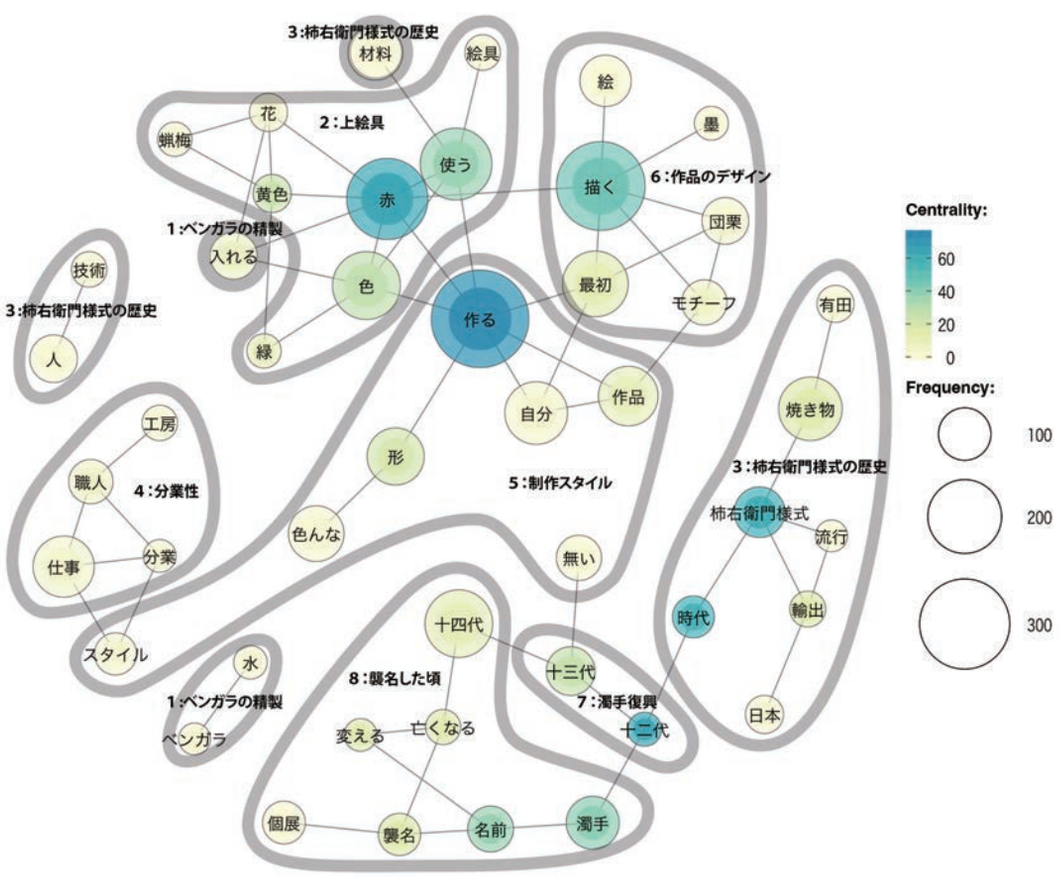

図７　十五代のクラスターのタイトルを加えた共起ネットワーク図

を追い求めることよりも、柿右衛門様式という伝統を引き継いでいくことについて関心が高いことが窺える。

7．考察

本研究で比較したのは、博多人形師の中村と陶芸家の十五代であるが、制作物の人形と器の用途は異なる部分が多い。工芸品は基本的には生活必需品がベースとなっており、その用途に応じて作られてきた。日本における人形については、縄文時代に信仰の対象として生まれ、子供が遊ぶ郷土玩具や縁起物、節句人形など様々な形に展開され現代に伝わっており、用途としては基本的に祈りや飾るという機能を持つものである。一方器は、縄文時代の土器から須恵器、陶器、磁器と強度を増しながら現代に伝わり、多種多様な形態があるものの基本的には器として使うものである。つまり、人形には飾るに値する意味や物語が求められ、器には器としての機能が優先的に求められると考えられる。

人形のモチーフは、人物や物語を具現化したものが多く、表現したものをはっきり認識することができる。鑑賞者は人形として表現された物語や人物に共感したり、感情移入することができる。中村のインタビューもストーリー性があり非常にドラマチックである。しかし、モチーフが具象的であるが故に、物語や人形の形に曖昧さが許されない一面がある。中村は『わからないことがあれば徹底的に調べる』[3)]と述べているが、例えば、人形が着ている着物や持ち物が表現しようとする時代に存在しないものだったら、その世界観は破壊されてしまうであろう。また、私たちは常日頃人とコミュニケーションを取って生活しているが、毎日人間を見ているため、骨格や姿勢、特に表情については少しの変化でも気づくものである。つまり、体の重心やパーツのバランス、表情といったものに正確さが求められると考えられる。その一方で、中村は『工芸って言われる仕事は全部しますよ。轆轤も挽きますし、染織もできるし、金工とかもする。ガラスも吹きます。』[4)]と述べており、博多人形としての作品作りには条件があるものの、様々な材料を使って表現できることに強みがあると考えられる。中村家には、制作に関する伝統的な決まりはなく、決まりがあることで「何かにこだわるようになると新しいことができなくなる」という思想がある。そのため、中村は父衍涯が作った型をすべて捨てたというエピソードがあり、過去に固執せず常に新しいものを創っていこうとする姿勢が窺える。博多人形を作る中村家のアイデンティティを引き継ぎつつ、様々な顧客からの要望に応えながら、顧客が納得するまで作品は作り直し、納得してもらえるまで代金は貰わないという点に「人のために創る」という中村の信念が見える。

一方器の方は、器として機能する必要があり、鉢なら鉢、皿なら皿としての形が求められる。意匠が人物の場合は、中村の人形同様に物語や人物像が求められる可能性があるが、十五代の作品に描かれる文様の大半は植物文様であり、モチーフそのものには物語がない場合が多い。仮にそのモチーフを描くに至ったエピソードがあったとしても、器から窺い知ることはできない。しかし、洗練された器から「どうやって作ったのか」など技術力の高さを楽しむことができる。歴史を踏襲しながら、原材料についても現代における最高品質の原材料を使い、分業制で各工程の最高

の技術を以って作られるのが濁手作品である。十五代の作風については「各会場で個展をする度に少しずつ手を入れながら、色んな作品を作り続けてきて（2018.4.4. 福岡大丸）」と述べており、自身の作風を模索しながら作り続けることを重視していることがわかる。また、江戸時代の土型や先代、先々代の作品について「参考にさせてもらいながら仕事をしております（2019.12.7 長崎浜屋）」と述べており、過去を踏襲しながら新たな作風を模索していることが窺える。「もうこれで満足だという時は衰える時である」という渋沢栄一の言葉があるが、作家の作品は常に完璧かつ完成された状態で発表されているわけではなく、作品を出品しながら改善点を把握しつつ、顧客や同業者からの反応、展示台の高さや照度といった展示環境など様々な要素に影響を受けながら作風は変化している。柿右衛門様式磁器の特徴の一つに器の口縁に銹釉が施された「口銹」というものがあり、柿右衛門様式の余白がある構図にメリハリをもたらす額縁効果があると言われる。その口銹について、令和4（2022）年 11 月の郡山うすい百貨店における個展では、図録掲載の作品全てに口銹が施されておらず、会場に展示されている作品2点のみに口銹が施されていた。このことについて十五代は、ある作家に「口銹があることで色取りが強烈に感じる」との意見を受け、口銹をしなかったという。十五代は客や同業者の意見に耳を傾け、作品を個展会場に並べてみて、展示台の高さから文様の位置やボリュームを検討したり、自身の他の作品と見比べながら個展全体としてバランスを検討するなど、常に最善を尽くそうとしている。十五代が襲名して間もない頃、十四代酒井田柿右衛門（以降、十四代）の後輩にあたる住職から「柿右衛門という大きな木が立っていて、そこから各代が枝を伸ばすのですよ。その枝が大きくなる枝もあるし、そうじゃない枝もあるけれども、どんな枝が大きくなっても、育たなくても、柿右衛門窯という幹自体はしっかりあるので、自分の枝をどうするかは自分で自由にやれば良いのですよ。」という十四代が襲名時に言ったという言葉を聞かされ安心したという。すなわち、職人を絶やさず歴史をつなぐという「窯を守る」ということが十五代の重要な任務であるが、これは作家としてよりも経営者としての信念に近いものであり、過去と未来をつなぐものとして柿右衛門様式という大きな枠組みの中で「創り続ける」ことこそが十五代の信念と考えられる。

一方中村は、高松宮記念賞を受賞した「島影（図8）」について、沖縄でゴルフをしていた時にフェアウェイを歩いていると、有田弁で十四代が「信喬君、君も沖縄の作品が良いんじゃなかにゃ?」[5] と優しく言われ、「琉球の首里城に勤めている人が自宅に帰り、座っているような姿が目に焼き付いた」といい、十四代の一言が制作の切掛で、人生 2 回目のブレイクポイントだったと述べている。また、中村は柿右衛門様式磁器を手に携えた加比丹（図9、図 10）を制作しているが、同型の作品を柿右衛門窯が収蔵しているように、作家同士の交流や様々な方面からの影響を受けつつ、作家性は作品に反映されてきていることがわかる。中村と十五代の作る品目は異なるものの、伝統工芸を現代に展開する作家に共通していることは、「人のために作っている」ということである。伝統工芸における作家性というものには、他人を思いやる「調和」や「おもてなし」の精神があり、現代アートと言われる行き過ぎた自己主張や自己顕示欲とは対局にある。工芸

図８　島影　中村信喬　1999 年　太宰府天満宮蔵

品は使う人が主役であり、それを支えるものづくりの精神が工芸作家の人格と作家性を高めていると考えられる。

８．おわりに

現在、世の中には多くの製品やサービスが溢れており、消費者はその中から自分にとって最適なものを選び出すことが情報過多故に困難になっていると言われている。その一方で、選択の際に納得できる理由が一つでもあれば、例え理由に矛盾があったとしても構わないという､「理由に基づく選択」を行うと言われる。伝統産業において工芸品が支持され続けるのは、品質やブランドに対する安心感や所有することの満足度に加えて、作家や作品にまつわる物語という消費者を納得させられる理由があるからと考える。例えば「作者の人生観」や「作品に込められた想い」､「作品の制作工程」､「消費者が作品と出逢うまで」など様々なところに物語を見出すことができる。

量的に少ないテキストデータに対するテキストマイニングは、情報の偏りや分析者の意図が反映されやすく各所に問題は山積している。しかし、本研究における比較分析によって作家の信念や特性というものを抽出することができた｡本研究を足がかりに、他の陶芸作家や国内外の工芸に携わる人物についても比較分析を行い、「十五代らしさ」について検討していきたい。

図9　長崎幻影　平成 15 年西部工芸展日本工芸会西部支部長賞

図 10　長崎の灯　中村信喬　2018 年　九州産業大学美術館蔵

注

1）分析対象とした動画のリスト

・九州産業大学美術館 KSU「プロの世界 vol.8 人形師 中村信喬展インタビュー」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=Jc39ueOHOnY&t=134s（参照 2023-02-17）.

・テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（1）| TNC テレビ西日本」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=dMwIMUbtJ-o&t=5s（参照 2023-02-17）.

・テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（2）| TNC テレビ西日本」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=jEqPTw3WhqA（参照 2023-02-17）.

・テレビ西日本 TNC「【公式】「匠の蔵～ HISTORY OF MEISTER ～ 」中村信喬（3）| TNC テレビ西日本」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=20wsL8LqiTA（参照 2023-02-17）.

・中洲の山田ちゃんねる N.Y.C.「ep.06 人形師 中村信喬氏との対談【櫛田神社 山笠】前編」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=SCmOsp2q_0g&t=28s（参照 2023-02-17）.

・中洲の山田ちゃんねる N.Y.C.「ep.06 人形師 中村信喬氏との対談【櫛田神社 山笠】後編」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=badIgJJdVDA&list=LL&index=5&t=22s（参照 2023-02-17）.

・TheCowtelevision「【博多人形師（2)】博多人形師として生まれて　中村家の家業継承」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=lVnfYkl53VM&t=51s（参照 2023-02-17）.

・TheCowtelevision「【博多人形師（3)】ものづくりの心構え　座右の銘「一得一失」」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=Rz5wr0mxmck（参照 2023-02-17）.

・TheCowtelevision「【博多人形師（4)】人生を変えた３つの転機　次世代へのメッセージ」Youtube, https://www.youtube.com/watch?v=3sBlIsNTJtg（参照 2023-02-17）.

2）KH coder とは、テキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア。アンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまな社会調査データを分析するために制作された。「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」と呼ばれる方法に対応している。

3）「ep.06 人形師 中村信喬氏との対談【櫛田神社 山笠】後編（7:55 ～)」において、「何でもできるのが人形師」ということについて述べている。

4）「プロの世界 vol.8 人形師 中村信喬展インタビュー（2:40 ～)」において、「知らずに作ることはできない」と述べている。

5）「【博多人形師（4)】人生を変えた３つの転機　次世代へのメッセージ（2:24 ～)」において、人生を変えた２回目の出来事として「島影」にまつわる十四代とのエピソードについて述べている。

参考文献

[1] （2022）「プロの世界 vol.8 人形師 中村信喬展」（展覧会図録），九州産業大学美術館.

[2] 木田拓也（2011）『「伝統工芸」と倣作：草創期の日本伝統工芸展の模索』東京国立近代美術館研究紀要第 15 号，pp.23-46.

[3] 長沢伸也（2018）「感性工学と感性評価と経験価値」感性工学 16 巻 3 号，pp.125-132.

[4] 髙木紀久子 , 河瀬 彰宏 , 横地 早和子 , 岡田 猛（2015）「現代美術家の作品コンセプト生成過程の解明
―インタビューデータの計量的分析に基づいたケーススタディ―」認知科学 22 巻 2 号，pp.235-253.

[5] 岡田 猛 , 横地 早和子 , 難波 久美子 , 石橋 健太郎 , 植田 一博（2007）「現代美術の創作における「ずらし」のプロセスと創作ビジョン」認知科学 14 巻 3 号，pp.303-321.

[6] 市川祐樹（2007）「「工芸」および「職人」概念の歴史的変遷に関する考察 : 職人の技術伝承に関する基礎的研究 (2)」地域政策研究 10(1)，pp.109-128.

[7] 牟田園涼子（2022）「ロンドンより発信、英国で愛される伝統工芸品の魅力とは」自治体国際化フォーラム 387 号「世界に発信、伝統工芸品の魅力」，pp.5-6.

[8] 早坂諒, 堀川なお（2022）「フランスにおける日本の伝統技術・工芸品販売の現状」自治体国際化フォーラム 387 号「世界に発信、伝統工芸品の魅力」，pp.7-8.

[9] 樋口耕一，中村康則，周景龍（2022）「動かして学ぶ!はじめてのテキストマイニング：フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析 KH Coder オフィシャルブック II」ナカニシヤ出版 .

[10]濱川和洋（2020）「テキストマイニングによる十五代酒井田柿右衛門の作品解説に関する分析」九州産業大学伝統みらい研究センター論集第 3 号，pp.83-108.

[11]濱川和洋（2021）「十五代酒井田柿右衛門のギャラリートークからみる制作意識の変化に関する分析」九州産業大学伝統みらい研究センター論集第 4 号，pp.57-72.

[12]濱川和洋（2022）『九州産業大学創立 60 周年記念特別展「酒井田柿右衛門×九州産業大学＝ MIRAI」に関する報告』九州産業大学伝統みらい研究センター論集第 5 号，pp.81-112.